

主役は町の皆さん

今回審査員となった、福島民報新聞、福島民友新聞社の方々からは「ページをめくるたびに変化があり、めくる楽しさがある。写真が非常に美しく、住民の表情も良くとらえられている。バランスが取れていて、レイアウトも良い」と講評をいただきました。

「広報こおり」は、町の皆さんが主役の広報紙です。皆さんの活動や強い思い、地域への愛情がなければ、記事を書くことはできません。今回の受賞は、町の皆さんの魅力が紙面から飛び出して、評価された結果です。皆さんと一緒にとった三冠。このことを励みに、これからも、皆さんの頑張る姿や思いを伝えることに力を注いでいきます。子どもから大人まで一人一人にスポットライトを当て、皆さんの笑顔が生まれる「広報こおり」をお届けします。

Special Feature

県市町村広報コンクール



昨年8月に実施した桑折町暮らし体験事業に参加。6日間の体験を通して、桃栽培・販売を学ぶ

なお
石井 奈央さん
福島大学農学群1年

自分の思いが伝わった喜び

農業体験では、町の皆さんのあたたかさに触れ、とても充実した6日間を過ごすことができました。広報紙の写真を見ると、今でも鮮明に皆さんのことを思い出します。

学生の思いが詰まった、特集「気付きのススメ」。たくさんの友人や家族に「良い記事だったね」と声をかけてもらい、広報紙を通して、多くの人に自分たちの思いを届けられたのだとうれしくなりました。

今振り返ると、桑折町にはアットホームな農園が多いと感じます。気さくで優しい人ばかりで、皆さんと一緒に栽培・収穫した果実は、本当においしくて格別な味でした。この体験を通して、果樹栽培や6次化産品などの視野も広がり、将来の選択肢も増えました。貴重な経験をさせてもらった、町の皆さんに「ありがとう」と伝えたいです。

【広報紙】町の農業体験に参加した大学生らが感じた「外から見た桑折町の良さ」とは。普段日常化してしまっている町の魅力を、町の皆さんにも考えてもらえるような問題提起型の特集にしました

■ 広報紙の部：10月号「気付きのススメ」

